

# 事業の概要

## 1 常設展示

常設展示を構成する資料

区 分	実物資料 及び標本類	ジオラマ機器 模 型 類	カラー透視 写真及び写真	図 板	計
地 学	454 <sup>点</sup>	29 <sup>点</sup>	6 <sup>点</sup>	32 <sup>点</sup>	521 <sup>点</sup>
生 物	938	89	64	28	1,119
歴史・民俗	686	29	68	45	838
美 術	801	—	—	4	805
合 計	2,889	147	138	108	3,283

### (1) 地学・生物展示室 (515㎡)

#### <地 学>

- 本県の地形と地質の全貌と特徴を各種の模型で展示。
- 郷土の生いたちについて岩石や化石などによって解説。
- 本県及びその周辺で産出した化石と各地質時代の化石（三葉虫、アンモナイト、タルボサウルスほか）の展示。ナウマンゾウの全身骨格（模型）とゾウの進化に関するコーナーを設置。
- 古生物を中心にした各地質時代の景観得元ジオラマ7景。
- 本県で産出した有用鉱物を中心として、基本的な鉱物（水晶、方解石、ザクロ石、黄鉄鉱等）を展示。
- 温泉水地下地質と湧出する機構を示す模型の展示。
- 紫外線の照射による蛍光鉱物の発光実験。
- 各種ウラン鉱物の展示と放射能測定の実験。
- 砂丘と大山の地質的特徴とその生成発達を解説展示。
- 人類の進化についてレーザーディスクによって解説。

#### <生 物>

- 大山と砂丘の生物の垂直分布や水平分布の状態とその特性を解説展示。
- 岩礁の生物と生態と分布を解説展示（ジオラマ）。
- 中国山地の代表的な植生景観と動物の生態展示（ジオラマ）。
- 頭足類、甲殻類、魚類の分類と生態を解説展示。
- ハチュウ類の分類展示。
- 両生類の分類展示。オオサンショウウオの発育過程と飼育の展示。
- 池の生物の生態展示（ミニジオラマ）。
- 水生小動物の飼育展示。
- 鳥類の生息環境による分類と生態を解説展示。

- 哺乳類の分類展示。
- 山陰沿岸の貝類の分類と生態を解説展示。
- 昆虫の生活様式による分類と生態を解説展示。
- 郷土の植物の分類展示。
- 樹幹とキノコの生態展示。
- 動物の行動や植物の生育環境をレーザーディスクによって解説。

#### <自然資料紹介コーナー>

- 春の植物 平成3年4月13日～5月31日
- 若葉のころの小鳥たち 平成3年5月9日～6月30日
- 中生代に栄えたアンモナイト 平成3年7月2日～8月31日
- 身近なトンボたち 平成3年9月1日～9月29日
- 秋の植物 平成3年10月1日～11月24日
- グリーンタフ変動により形成された日本の鉱床 平成3年11月26日～平成4年1月26日
- サルの仲間 平成4年1月28日～3月22日

## (2) 歴史・民俗展示室 (515㎡)

### <狩猟から農耕へ>

- 縄文時代の遺物（土器、石器、骨角器）と生活の解説展示。
- 弥生時代の遺物（青銅器、土器、石器）及び文化交流などの解説展示。

### <古墳とその時代>

- 古郡家1号墳をはじめとする古墳の一括資料の解説展示。
- 本県で出土した須恵器の分類展示。
- 重要文化財伯耆長瀬高浜遺跡出土はにわ等本県で出土した代表的なはにわの展示。
- 銅鏡、各種玉類、武具、馬具などの展示。
- 梶山古墳彩色壁画のカラー写真パネルと出土遺物の展示。

### <奈良・平安の因伯>

- 古廃寺出土の軒丸瓦、仏足、瓦経などの展示。
- 伯耆国分寺跡出土の風鐸の展示。
- 経筒等経塚出土品の展示。
- 国宝三徳山三仏寺投入堂模型（10分の1）。
- 因幡国庁出土の墨書土器緑釉陶器等の展示。
- 平城宮出土の木簡（レプリカ）の展示。
- 伊福部徳足比売骨蔵器（レプリカ）の展示。
- 時範記（複製）等の展示。
- 国宝・伯耆一宮経塚出土の経筒（レプリカ）の展示。

### <戦乱の時代>

- 因伯の荘園と武士団の分布図及び伯耆国河村郡東郷庄下地中分図（模写）の展示。
- 中世遺跡出土、罌口、青磁小壺、白磁五輪花皿、青磁香炉、青磁盤の展示。
- 新興寺文書及び伝名和長年像の展示。

- 布施天神山城出土の陶磁器片の展示。
- 梵鐘二口（廃阿代寺、国英神社）印賀宝篋印塔（レプリカ）の展示。

#### <土農工商の社会>

- 鳥取城模型、鳥取城下図（模写）、鳥取城瓦など鳥取城関係の展示。
- 池田光仲肖像・書画をはじめ鳥取池田家の解説展示。
- 大山寺領絵図（模写）・大山牛馬市図など江戸時代の大山寺の解説展示。
- 検地帳や宗門改帳、町奉行日記や町年寄日記など江戸時代の農村と都市について展示。
- 鳥取藩の藩札と近世の貨幣などの展示。

#### <因州藩から鳥取県へ>

- 最後の藩主池田慶徳、初代県令河田景与の肖像写真パネルの展示。
- 藩から県に移行する時期の行政の日記の展示。

#### <生活の中の道具>

- 江戸時代末期から明治時代にかけて分布した広間型農家の一部を復元し、生活用具を配して展示。
- 稲作農具を稲作作業の進行にしたがって展示。
- 本県の漁業について、漁具、漁船模型、海女関係民具などを展示。
- 日用品、交易、化粧、食器その他の日用品の分類展示。
- 行器（ほかい）、婚礼に使用された各種のつものたるなどの展示。

#### <伝え継ぐ心>

- 年中行事、県内の代表的な民俗行事を季節により写真と資料によって解説展示。
- 人形芝居、きりん獅子、郷土玩具などの芸能娯楽用具を解説展示。
- とんど、双盤念仏、綱引き、亥の子などの民俗行事をVTRによって紹介。

#### <歴史の窓>

- 鳥取城を掘る 平成3年4月2日～6月30日
- 名和長年顕彰のあゆみ 平成3年7月2日～8月4日
- 漂着物の民俗 平成3年8月6日～9月29日
- 鳥取の古代寺院 平成3年10月1日～11月24日
- 年神の訪れ 平成3年11月26日～平成4年1月30日
- 香川景樹 平成4年2月1日～3月31日

### (3) 美術展示室 (260㎡)

- 平安時代から室町時代の国・県指定の仏像・仏画を展示。
- 江戸時代の鳥取藩絵師等の掛軸・屏風及び本県出身作家の作品を展示。
- 本県出身の彫刻家の作品をロビー等に展示。

主な展示資料 (○印は保護文化財)

#### <仏像・仏画等>

- |             |          |            |          |
|-------------|----------|------------|----------|
| ○大日如来坐像（木造） | 若桜町永福寺蔵  | ○木造狛犬      | 三朝町湯谷地区蔵 |
| ○木喰稲荷像（木造）  | 倉吉市円谷地区蔵 | 蔵王権現立像（木造） | 岩美町観照院蔵  |
| 十二天図        | 智頭町豊乗寺   | 毘沙門天立像（木造） | 個人蔵      |

胎藏界曼荼羅	当館蔵		○釈迦十六善神図	用瀬町大安興寺蔵	
○不動明王像	智頭町豊乗寺蔵				
<工 芸>					
密教法具	当館蔵		懸 仏	当館蔵	
備前焼壺	個人蔵		染の型紙	個人蔵	
○染織布	鹿野町譲伝寺蔵		白磁四耳壺	個人蔵	
○擬宝珠（二口）	関金町地藏院蔵		漆芸品	当館蔵	
○飾太刀拵	鳥取市樗谿神社蔵		中国陶磁器	個人館	
<近世絵画>					
○雲龍図（双幅）	土方稻嶺	個人蔵	琴棋書画図	根本幽峨	個人蔵
牡丹孔雀図	〃	〃	女酒宴図	〃	〃
遊鳩図	〃	〃	淡青緑山水図	〃	当館蔵
猿鹿図	〃	当館蔵	遊鯉図	小畑稻升	個人蔵
猿之図	〃	個人蔵	四季花鳥図	〃	〃
山水花鳥図	〃	当館蔵	双鶏図	片山楊谷	当館蔵
花鳥図屏風	黒田稻臯	個人蔵	猛虎図	〃	個人蔵
○鯉遊泳図屏風	〃	〃	芳野山春景図	沖 探容	〃
○群鯉図	〃	個人蔵	月に秋草図	〃	〃
雲龍図	〃	当館蔵	富士秋景図	狩野探信	〃
醉李白図	島田元旦	〃	四季草花図	沖 一蛾	〃
山水図	正牆適処	個人蔵	遊亀図	〃	〃
山水図	建部樸斉	当館蔵	紫陽花鶏図	河村芳舟	当館蔵
<近代彫刻>					
つどい	長谷川塊記	当館蔵	婦人像	辻 晉堂	個人蔵
裸	早川巍一郎	〃	寒山	〃	〃
寒 拾	辻 晉堂	個人蔵	拾 得	〃	当館蔵
鶏と女	〃	〃	野良の父と子	〃	個人蔵

(4) 近代美術展示室 (374㎡)

ア 現代の工芸 ～新しい展開～

会 期 平成3年4月27日(土)～5月26日(日)

多彩に展開する現代美術の中から、最先端の前衛陶芸や伝統陶芸の現代的表現など、現在の工芸の状況について紹介した。

<出品目録>

番号	作家名	作 品 名	大きさ (cm)	制作年
<b>【伝統陶芸】</b>				
1	金重 素山	伊部火樗 細水指	20.9×15.0×15.5	
2	〃	伊部緋樗茶盃	8.0×13.5×12.5	
3	河井寛次郎	三 色 碗	7.8×16.0×15.5	
4	隠崎 隆一	備前 月器 (春)	22.5×44.5×13.0	1990
5	〃	備前広口壺花入	40.8×39.0×22.5	
6	加藤 委	灰 釉 壺	23.0×21.0×20.0	
7	クロード・シャンピ	俎 板 皿	6.5×44.2×27.0	1988
8	鯉江 良二	白 碗	6.5×14.6×13.4	
9	高鶴 元	色釉壺・秋の譜	38.5×27.5×26.0	1989
10	清水 卯一	蓬来釉裂茶盃	9.0×12.5×12.2	
11	十代 大樋長左衛門	萌黄金彩茶盃	8.0×13.1×13.0	1990
12	十二世 坂高麗左衛門	萩 水指	15.0×18.0×18.5	
13	十五代 坂倉新兵衛	萩灰被耳付 水指	19.2×24.0×20.5	
14	十五代 柴左衛門	茶 碗	9.0×15.0×12.5	
15	瀬戸 浩	青結晶釉金ストライプ壺	33.5×29.5×29.5	1990
16	高内 秀剛	黒織部 水指	20.4×20.3×21.4	1991
17	〃	織部 水指	17.5×19.0×20.5	1990
18	〃	志野 水指	19.6×20.0×19.2	1990
19	〃	織部茶碗	10.9×11.0×11.0	
20	竹中 浩	色絵プラチナ彩 椿文瓶		
21	〃	鉄砂松竹文扁壺		
22	〃	瑠璃釉八陵盒子		
23	〃	白磁透彫椿文墨床		
24	〃	染付秋草文 水滴		
25	〃	白磁硯 水禽文		
26	〃	金彩牡丹文瓢形瓶		
27	〃	白磁透彫円面硯		
28	中川自然坊	青唐津 水指	16.0×18.5×18.0	
29	中村 錦平	茶 碗	10.0×13.5×13.0	
30	西端 正	灰釉掛分陶管	14.7×31.0×36.5	1990
31	藤本 能道	緑金彩夕顔文 八角管	13.0×30.0×30.0	

32	前田 正博	色絵金銀彩 深鉢	22.3×25.2×25.0	
33	〃	色絵金銀彩 深鉢	26.0×18.0×18.0	
34	松井 康成	晴白練上 茶盃	7.0×14.5×13.0	1989
35	〃	練上 茶碗	7.5×13.7×12.8	
36	三輪 栄造	南蛮手 金彩水指	18.2×21.5×21.7	1990
37	山下 譲治	備前扁壺	45.5×27.0×28.0	
38	吉本 正	備前四方大皿	7.3×37.5×61.0	
【前衛陶芸】				
1	秋山 陽	UNTITLED	35.0×24.0×22.0	1990
2	荒木 高子	石の聖書	15.0×22.0×19.5	1991
3	〃	ゴールデン・バイブル	16.0×26.0×21.0	1990
4	〃	シルバー・バイブル	16.0×28.5×25.0	1990
5	井上 雅之	Untitled	79.0×22.4×16.8	1987
6	〃	KOK-85	78.5×24.0×16.5	1985
7	加藤 委	川 小 牧	11.9×32.0×17.7	1990
8	金重 晃介	備前花器・海から	41.0×30.0×38.5	1988
9	高鶴 元	色釉蓋物	17.0×35.5×25.5	
10	佐藤 健	器 物 '90	79.0×72.0×51.0	1990
11	〃	器物'89-1	47.5×50.0×12.0	1989
12	〃	染付キカイナ水注	14.0×31.0×12.0	1990
13	〃	酔 東 山	16.0×36.5×8.5	1990
14	〃	彩角輪水滴	8.5×37.0×38.0	1990
15	〃	異 打 点	45.0×62.0×30.0	1990
16	神内 康年	Non title	71.5×27.5×26.5	1990
17	〃	Non title	30.0×20.5×31.0	1991
18	鈴木 治	鳥 像	13.2×12.0×13.0	1978
19	〃	瑠 璃 鳥	13.2×12.0×12.5	
20	滝口 和男	無 題 (きんぎょ)	24.7×37.5×23.5	1991
21	〃	無 題	46.7×46.8×22.0	1989
22	〃	無 題	29.3×32.5×19.6	1989
23	寺田 康雄	金滴 南瓜	21.3×34.5×34.0	1990
24	中村 錦平	扁壺—伝統的壁空間のために	46.5×47.0×17.0	1981
25	〃	るる押文金彩陶筐	27.3×43.0×29.0	1989
26	〃	行方知れぬ風	39.0×44.5×31.0	
27	〃	枯レテシマイソウナ内部ニ	29.5×43.0×12.0	
28	〃	不具ノ石ヲ	30.2×38.0×15.0	
29	〃	歪曲サレテモ標本	42.2×50.0×36.5	
30	〃	石ニ接吻した	25.0×32.0×20.0	
31	〃	キュクアンキコリアン	23.8×28.0×20.0	

32	西村 陽平	原色学習図解百科 5	16.0×21.0×18.5	1990
33	〃	セミレーヌ	11.5×26.0×18.5	1990
34	林 秀行	瀬 の 音	34.0×21.5×19.5	1991
35	〃	明け暮れの鐘	38.3×31.5×25.0	1991
36	深見 陶冶	涼	32.5×36.4×37.7	1988
37	藤平 伸	ブランコ	31.0×20.0×19.0	1990
38	三島喜美代	P O T - 87	35.0×35.0×30.0	1987
39	〃	B O X - T S	26.0×28.0×20.0	1987
40	宮永 理吉	天窓から	25.5×48.0×11.2	1991
41	三輪 龍作	卑弥呼山	36.0×39.5×22.5	1990
42	三輪 和彦	白 い 夢	70.0×30.0×31.0	1991
43	元永 定正	ほそいところにきんぎんしろだま	19.0×24.0×18.0	1989
44	柳原 睦夫	破顔笑壺	66.3×39.2×32.0	1990

【漆工・金工・木竹工・ガラス物芸など】

番号	作家名	分野	作 品 名	大きさ (cm)	制作年
1	磯井 正美	漆 工	紋黄揚羽菓子器 (キンマ)	9.0×21.1×21.1	
2	〃	〃	香 合	3.0×8.0×8.0	
3	大場 松魚	〃	平文光彩箱	12.0×22.0×14.0	1989
4	〃	〃	平文南飛平棗	5.2×8.5×8.5	1982
5	音丸 耕堂	〃	彫漆草花文水指	11.1×20.2×20.2	
6	〃	〃	彫漆梅花空木茶器	6.4×9.0×9.0	
7	音丸 淳	〃	彫漆喰籠「夕焼」	12.3×21.5×21.5	
8	寺井 直次	〃	胡蝶夢蒔絵香合	3.2×6.6×6.6	
9	鳥毛 清	〃	沈黒飾箱「立春」	12.3×27.0×19.6	
10	増村 益城	〃	残胎金彩葉盤	5.8×27.7×28.0	
11	増村紀一郎	〃	漆金彩盆	2.3×25.4×25.4	
12	鹿島 一谷	金 工	布目象嵌双舞文銀水注	16.5×13.9×10.5	
13	〃	〃	月象文銀盒子	4.3×8.5×8.5	
14	香取 正彦	〃	獅子鈕香鉦月龍銀	12.2×15.5×12.5	
15	関谷 四郎	〃	銀 酒 器	14.3×9.5×9.5	
16	〃	〃	純銀打出天女香合	4.4×7.4×7.4	
17	中臺 瑞眞	木 工	利休形面取拭漆大茶箱	13.2×21.5×14.7	
18	大野昭和斉	〃	蔦木目沈金平棗	6.2×8.5×8.5	
19	飯塚小玗齋	竹	白錆花藍「雲籠」	43.0×64.0×60.0	
20	岩田 久利	ガラス	琥珀紅朱流影文壺	28.0×18.5×18.5	
21	小林 英夫	〃	くもの巣切子三段重	19.1×15.3×15.3	
22	〃	〃	被硝子菊籠目切子水指	16.4×15.3×15.3	
23	藤田 喬平	〃	手吹飾宮夢殿	15.8×18.2×18.2	
24	〃	〃	手吹ガラス花瓶	34.3×19.0×19.0	

25	藤田 喬平	ガラス	手吹飾筥紅白梅	15.0×18.2×18.2
26	〃	〃	手吹ヴェニス茶盤	6.5×13.2×13.0
27	益田 芳徳	〃	硝子冷茶碗	9.8×14.0×13.5
28	〃	〃	硝子削釉花瓶	26.9×14.5×11.5
29	山本 仲子	七宝	省胎七宝不二唐草文茶碗	8.4×14.3×14.2

【壁面作品】

番号	作家名	作品名	大きさ (cm)	制作年
—陶板—				
1	鯉江 良二	白 い 花	32.0×30.0	
2	〃	ユガメラレタマド NO MORE・・・	50.0×37.0	1989
3	高鶴 元	セーラムの秋	24.0×33.4×6.0	1989
4	藤平 伸	花を持つ少年	24.0×16.5	
5	〃	鳥を持つ少年	30.5×22.0	
6	宮永 理吉	蒼の回廊	45.5×27.5	1991
7	元永 定正	かけら3	11.0×21.8	1988
—日本画—				
1	大野 倣高	紅 牡 丹	37.0×40.0	
2	河嶋 淳司	チ ー タ	91.0×72.0	1990
3	熊谷 守一	か へ る	53.0×41.0	
—油彩・ガッシュなど—				
1	井田 照一	Two Elements in Coner of Garden Love	43.0×61.0	1986
2	大藪 雅孝	菜 の 花	40.5×31.0	
3	大沢 昌助	無 題	32.5×23.5	
4	〃	風 景	37.0×45.5	
5	〃	作 品 3	26.5×21.5	
6	大沼 映夫	人 物	33.5×24.0	
7	佐藤 敏	真雅陳我図	60.5×75.0	1990
8	須田 剋太	舞 妓	38.5×27.0	1988
9	松田 正平	周 防 灘	33.0×23.5	
10	〃	犬 と 猫	26.5×38.5	
11	室越 健美	花のかたち	45.5×45.4	1991

イ 前田寛治の画業

会 期 平成3年6月8日(土)～7月21日(日)

前田寛治(1896～1930)の初期から晩年にいたる油彩と素描を紹介する中で、特に、ゴッホの影響がうかがえる作品を選んで展示し、彼のリアリズム観を再認識した。

<出品目録>

番号	作品名	制作年	大きさ (cm)	材 質	所 蔵
○東京美術学校卒業のころ(1921年前後)					
1	自 画 像	1926頃	45.5×33.3	キャンパス	鳥取県立博物館



2	山陰の家並	1917	23.9×33.0	板	
3	麦わら帽の子	1920頃	23.7×33.2	板	
4	子 供	1920頃	33.0×23.6	板	
5	風 景	1921頃	23.8×32.8	板	
6	山の見える風景	1921頃	24.0×33.0×	板	
7	花と子供等	1921	80.5×117.0	キャンバス	鳥取県立博物館
8	立てる子供	1922	117.0×80.5	キャンバス	鳥取県立博物館
9	少 女	1922	65.5×46.0	キャンバス	
○ゴッホの影響がうかがえる作品					
1	畑	1921頃	23.3×33.0	板	
2	子 供	1921	33.5×45.5	キャンバス	
3	ダ リ ヤ	1921	60.8×50.0	キャンバス	
◆	ゴッホの墓	1923	50.0×60.0	キャンバス	写 真
◆	家 族	1923	115.0×79.0	キャンバス	写 真
4	繙帯をした男	1924頃	73.0×50.0	キャンバス	鳥取県立博物館
5	物を喰う男	1924	116.7×91.0	キャンバス	鳥取県立博物館
6	労 働 者	1924頃	117.0×91.0	キャンバス	
7	彫刻家の肖像	1925	117.0×80.0	キャンバス	
8	ブルターニュの女	1925	166.0×101.0	キャンバス	
9	白い服の女	1928	73.0×60.5	キャンバス	鳥取県立博物館
10	棟梁の家族	1928	131.0×162.5	キャンバス	鳥取県立博物館
◆	海	1929	181.0×273.0	キャンバス	写 真
○パリ留学中（1923～1925年）					
1	メ ー デ ー	1924	72.7×91.0	キャンバス	
2	静 物	1923	53.5×64.0	キャンバス	
3	工場風景	1924	53.0×80.3	キャンバス	鳥取県立博物館
4	工場内部	1924	72.7×60.5	キャンバス	
5	立っている労働者	1924頃	162.0×93.0	キャンバス	
6	裸 婦	1925	99.7×72.5	キャンバス	
7	赤い帽子の少女	1925	61.5×45.0	キャンバス	
8	西洋婦人像	1925頃	90.5×73.0	キャンバス	鳥取県立博物館
9	西洋婦人像	1924	60.6×50.0	キャンバス	
○帰国後・晩年（1925～1930年）					
1	福本和夫像	1927	91.0×72.5	キャンバス	鳥取県立博物館
2	少女と子供	1927	145.5×112.0	キャンバス	鳥取県立博物館
3	裸 婦	1926頃	73.0×100.0	キャンバス	鳥取県立博物館
4	椅子にかける裸婦	1927	53.5×41.0	キャンバス	
5	伏臥裸婦	1928	113.0×146.0	キャンバス	鳥取県立博物館
6	横臥裸婦	1928	97.0×162.0	キャンバス	鳥取県立博物館

7	花	1929	45.5×38.0	キャンバス
8	二人の子供	1929頃	23.8×33.0	キャンバス
9	海	1930頃	16.0×23.0	キャンバス

○素描・・・・・・・・・・・・・・・・18点

ウ・型紙・型染の美～山陰の型紙～

会期 平成3年8月4日(土)～8月25日(日)

山陰地方に残っている江戸時代から明治・大正までの小紋などの型紙約200枚を中心に、現代の小紋型染の衣裳などを展示し、伝統的な意匠美とその技(わざ)を紹介した。

<展示資料>

【染の型紙】 180枚

錐彫による型紙	…………… 12枚	縞彫による型紙	…………… 11枚
道具彫による型紙	…………… 26枚	突彫による型紙	…………… 46枚
二枚型の型紙	…………… 44枚(22組)	珍柄の型紙	…………… 26枚
手拭用の型紙	…………… 9枚	印染の型紙	…………… 6枚

【型染の資料】 江戸～明治

小紋型染衣裳と染布	…………… 7領8点
染の端布帖	…………… 1冊
小紋見本帖	…………… 2冊
注文書	…………… 1枚

【型染の資料】 現代

型彫用の小刀(錐彫用、引彫用、道具彫用、突彫用)	…………… 12本
突彫用穴板	…………… 1枚
制作途中の型紙	…………… 3枚
型染見本布	…………… 2枚
江戸時代の型紙をもとに復元した染布	…………… 1反

エ 東京空襲の記録～恩田考徳が描いた焼け跡の水彩画～

会期 平成3年11月19日(火)～12月15日(日)

郷土出身の画家・恩田考徳(1901～1960)が、昭和20年に空襲で廃虚となった東京を描いた貴重な水彩画を展示し、ヒューマンな画家の眼がとらえた当時の東京の状況を紹介した。

<出品目録>

番号	制作月日	作品名	大きさ(cm)
銀座・日本橋周辺			
1	6.12	銀座尾張町にて	37.6×55.9
2	6.15	日本橋にて	37.8×56.0
3	6.19	銀座にて	37.0×55.6
4	7.15	東京駅にて	37.6×55.9
5	9.4	歌舞伎座前にて	37.7×55.8
6	9.6	銀座尾張町にて	37.7×55.9
7	9.30	日本橋より	27.7×71.1

8	10. 7	日本橋八重洲通りにて	27.8×71.3
9	10.14	日本橋通り三丁目より京橋を望む	27.8×66.0
10	不明	銀座劇場	27.3×77.7
麻布・六本木周辺			
11	4.17	麻布十番通りを望む	38.5×54.5
12	5.28	麻布宮村にて	37.5×56.0
13	6. 4	麻布十番にて	37.3×55.9
14	6. 5	麻布六本木にて	37.3×55.8
15	6. 6	麻布三河台町にて	37.0×56.0
16	6. 7	雨の麻布古川橋にて	37.5×55.8
17	6. 8	麻布十番より南山を望む	37.6×56.0
18	6. 9	麻布桜田町にて	37.5×55.8
19	6.10	麻布筆筈町にて	37.2×55.8
20	6.11	三田・慶大前にて	37.5×55.9
21	6.21	金杉橋にて	37.3×55.4
22	6.22	麻布日ヶ窪より岩崎邸を望む	37.1×55.7
23	9. 2	停戦日、麻布にて	37.4×55.5
24	10.30	六本木より麻布	27.3×68.9
25	11.19	麻布材木町にて	27.3×77.6
26	不明	三宅坂付近	27.4×77.7
27	不明	三宅坂から桜田門	27.1×77.7
赤坂・溜池周辺			
28	6.16	溜池にて	37.4×56.0
29	6.17	赤坂見附にて	37.6×56.0
30	6.18	赤坂山王下にて	37.4×55.6
31	6.28	赤坂氷川にて	37.3×55.3
32	9. 3	旧米大使館 停戦調印の翌日	37.6×56.1
33	11. 2	溜池にて	27.3×77.6
34	11. 3	神楽坂にて	27.0×77.6
35	不明	赤坂見附から青山へ	27.3×77.7
36	不明	溜池付附	27.3×77.6
37	不明	溜池・米大使館	27.6×76.9
新宿・渋谷・池袋周辺			
38	6.26	渋谷道玄坂を望む	37.6×55.8
39	7. 1	大久保より新宿遠望	37.4×55.7
40	7. 1	新宿にて	37.4×55.9
41	7. 5	四谷見附にて	37.5×55.8
42	7.18	池袋にて	37.3×55.9
43	11. 4	後樂園前にて	27.4×77.6

上野・浅草周辺

44	5. 20	上野広小路にて	37.6×56.0
45	5. 23	末広町より本郷台を望む	38.2×54.5
46	6. 29	上野広小路にて	37.3×55.9
47	7. 3	神田明神を望んで	37.3×55.9
48	7. 12	湯島より秋葉原を望む	37.7×55.8
49	8. 7	浅草にて	37.6×56.0
50	10. 15	浅草吾妻橋にて	28.2×77.6
51	10. 28	上野広小路にて	27.8×77.6
52	不明	永代橋たもと	27.6×77.6
53	不明	国技館付近	27.3×77.6
54	不明	両国橋と国技館	27.5×77.5

場所・制作月日が不明の作品

55	場所・制作月日不明		27.4×77.5
56	場所・制作月日不明		27.3×77.6
57	場所・制作月日不明		27.5×77.5
58	場所・制作月日不明		27.3×77.5
59	場所・制作月日不明		27.3×77.6
60	場所・制作月日不明		27.6×77.5
61	18. 4. 12	自画像	66.0×53.5

オ 郷土の日本画

会期 第Ⅰ期 平成4年1月5日(日)～2月2日(日)

第Ⅱ期 平成4年2月7日(金)～3月8日(日)

明治・大正・昭和前期に創作活動を行った郷土ゆかりの日本画家たちの作品を展示し、鳥取県の近代日本画の歩みを紹介した。

<出品目録>

【第Ⅰ期】

番号	作者名	作品名	制作年	規格	備考
1	遠藤 薫	鷺 と 松	明治38年	軸 装	当館蔵
2	〃	田 後 風 景		〃	〃
3	〃	色 紙		紙 彩 色	〃
4	正埜 適処	山 水 図	明治4年	軸 装	〃 (石谷コレクション)
5	〃	芳 山 暁 靄 図		〃	〃 (安富コレクション)
6	〃	西 園 雅 集	1866年	〃	〃
7	〃	耶 馬 溪 図		卷 子 装	〃 (安富コレクション)
8	根本 雪峨	因 州 加 路 浦 図		軸 装	
9	藤岡 神山	司馬温公機智救命の命		〃	当館蔵 (安富コレクション)
10	中住 道雲	群 鯉 図	大正7年	〃	〃 (君野コレクション)

番号	作者名	作品名	制作年	規格	備考
11	沖 九臯	肥後谷山水図	1867年	軸 装	当館蔵 (安富コレクション)
12	〃	春野草花図	1862年	〃	
13	小畑 稲升	鯉魚の図		〃	当館蔵 (石谷コレクション)
14	橋本 秀峰	業平東下図		〃	〃 (君野コレクション)
15	〃	四季耕作図	明治2年頃	軸装・4幅対	
16	〃	因伯名勝図		卷子装	当館蔵
17	河村 芳舟	牡丹孔雀図	昭和23年頃	軸装・2幅対	
18	〃	鯉頭観音		軸 装	
19	〃	唐美人図		〃	
20	〃	紫陽花鶏図		〃	当館蔵 (安富コレクション)
21	〃	巖上鶴と波		〃	1月5日～1月19日まで
22	〃	高砂図		〃	1月21日～2月2日まで
23	〃	夏景山水図	昭和24年	〃	
24	〃	富士牧狩の図	大正15年	6曲1双屏風	
25	大島 松谷	竹林山水図		軸 装	
26	〃	秋景帰樵図		〃	
27	〃	山水の図	大正6年	〃	
28	〃	春秋山水図	大正6年	6曲1双屏風	
29	〃	松竹梅図	大正10年	軸装・3幅対	
30	〃	鯉魚の図(貼交)		6曲1隻屏風	

【第 Ⅱ 期】

番号	作者名	作品名	制作年	規格	備考
1	山脇 晴雲	孔雀図	1930(昭和5)年	軸 装	倉吉博物館蔵
2	〃	菊	1930(昭和5)年	2曲1隻屏風	〃
3	〃	夕映	1929(昭和4)年	〃	〃
4	菅 橋彦	神倉秋景	1962(昭和37)年	額 装	当館蔵
5	〃	赤甲長槍		軸 装	
6	〃	東あそび舞人	1916(大正5)年	2曲1隻屏風	倉吉博物館蔵
7	〃	獅子舞		軸 装	米子市美術館蔵
8	小早川秋聲	東方朔・菊童子		軸装・2幅対	
9	〃	天		軸 装	
10	〃	荒磯		〃	米子市美術館蔵
11	八百谷冷泉	群魚	1947(昭和22)年	額 装	鳥取市遷喬小学校蔵
12	〃	孔雀図		軸 装	
13	〃	ざくろの図		2曲1双屏風	当館蔵
14	〃	白馬大雪溪図	1919(大正8)年	軸 装	
15	〃	奥滞峡	1950(昭和25)年	〃	
16	〃	黄金梅図	1945(昭和20)年	〃	
17	〃	平治の乱 平清盛出陣の図	1950(昭和25)年	〃	

番号	作者名	作品名	制作年	規格	備考
18	中島 菜刀	樹 下 青 嵐	1938 (昭和13) 年	2 曲 1 双屏風	当館蔵  当館蔵 (君野コレクション) " ( " )
19	"	麒麟獅子図		4 曲 1 双屏風	
20	"	雲雀の巣		軸 装	
21	"	蕉風梨園		額 装	
22	"	夕立図		軸 装	
23	毛利 秋晃	多鯰ヶ池		"	
24	"	鯛之図		"	
25	"	兜の図		"	
26	"	睡蓮の図		"	
27	"	蓮に鯰の図		"	
28	"	ざくろ	"		
29	"	鶏図	"		
30	"	赤魚	"		

## 2 特 別 展

### (1) マンモスと人類の時代～氷河時代の生きものたち～

会 期 平成3年7月26日(金)～8月25日(土)

会 場 第1展示室、第2展示室

主 催 鳥取県教育委員会、鳥取県立博物館

後 援 鳥取県各市町村教育委員会

入館料 一般500円(400円)、高校生300円(250円)

小・中学生200円(150円)※( )は団体料金

今から200万年前ごろから、地球は極端に寒くなったり、暖かくなったりするようになった。こうした自然界の大きな環境変化による生きものたちの移り変わりや人類の進化について展示・紹介した。

#### <関連行事>

##### ア 特別講演会

期 日 平成3年8月3日(土)

演 題 旧石器時代の世界

講 師 岡山大学教授 稲田孝司氏

##### イ 自然講座

期 日 平成3年8月11日(日)

テーマ 化石模型を作ろう

#### <出品目録>

所 蔵 者	資 料 名 ( ) 点数	点数
大阪大学教養部	マチカネワニ(1)	1
大津市立真野小学校	シガゾウ臼歯(1)	1
岡山大学文学部	岡山県上斎原村恩原産旧石器(20)	20
旺 文 社	港川人復元立像(1)、港川人復元胸像(1)	2
株式会社ココロ	マンモスゾウロボット(1)	1
京都大学理学部 地質学鉱物学教室	マンモスゾウの臼歯(2)、マンモスゾウの体毛(1)、トウヨウゾウの臼歯(1)、ゾウの足跡化石(1)、ナウマンゾウの頭骨(1)	7
倉敷市立 自然史博物館	ナウマンゾウの臼歯(2)、ナウマンゾウ切歯(1)、ステゴドン臼歯(2)、スイギュウの中手骨(1)、マヤシフゾウの角(1)、カズサジカの角(1)、ニホンムカシジカの角(1)、グレイ氏カトウキヨマサジカの角(1)	10

所 蔵 者	資 料 名 ( ) 点数	点数
国立科学博物館	マンモスゾウの臼歯(1)、マンモスゾウの体毛(1)、シガゾウの臼歯(1)、縄文人男性頭骨(1)、縄文人女性頭骨(1)	5
木の葉化石園	栃木県塩原層産化石(20)、カエル化石(1)	21
境港市立渡小学校	ナウマンゾウの臼歯(1)	1
四賀村化石館	ジャコウウシ(1)	1
島根大学地質学教室	ニホンアシカ(1)	1
東京大学総合研究資料館	港川人1号骨格(1)、港川人2号骨格(1)、港川人4号骨格(1)、三ヶ日人頭骨片(1)、三ヶ日人大腿骨(1)、三ヶ日人寛骨(1)、浜北人上腕骨(1)	7
栃木県立博物館	ニッポンサイ(1)	1
鳥取県教育研修センター	鮭川層産出化石ブロック(2)、大桑層産出化石(10)	12
鳥取大学医学部	オットセイの骨格(1)、人体骨格模型(1)	2
鳥取大学地学教室	氷縞粘土(1)、擦痕ある岩石(1)、ナウマンゾウの臼歯(1)、ナウマンゾウの切歯(1)、ミツガシワ(1)、ヒメバラモミ(1)	6
日本モンキーセンター	フィリピンメガネザル(1)、ワオキツネザル(1)、ゴールデンライオンタマリン(1)、ゲラダヒヒ(1)、ウーリーモンキー(1)、チンパンジー(1)、ダイアナモンキー(1)、オラウータン(1)、ゴリラ(1)、チンパンジーの骨格(1)	10
豊橋市自然史博物館	ゴリラの頭骨(1)、ヒトの頭骨(1)、アウストラロピテクス・ボイセイの頭骨(3)、A・ボイセイの下顎骨(2)、A・アフリカヌスの頭骨(2)、A・アフリカヌスの上顎骨(1)、A・アフリカヌスの下顎骨(1)、A・ロブストスの頭骨(2)、A・ロブストスの下顎骨(1)、タウング・ベイビー(1)、ケルコピティディアの頭骨(1)、ゲラダヒヒの頭骨等サル類化石(5)、リノコロブスの頭骨(1)、ケニアピテクスの上顎骨と歯(2)、プロコンスルの化石(4)、A・アフレンシスの下顎骨(1)、コビトキリンの下顎骨(1)、剣歯虎の化石(10)、石器(チッパー)(5)、石器(フレイク)(5)、H・ハビリスの頭骨(1)、H・ハビリスの下顎骨(1)、H・ハビリスの足骨(1)、H・ハビリスの大腿骨(2)、ペキン原人使用の石器(2)、ペキン原人復元頭骨(1)、ペキン原人脳模型(1)、ペキン原人下顎骨(1)、ジャワ原人頭骨(2)、ジャワ原人の大腿骨(1)、ジャワ原人下顎骨(1)、ハイデルベルグ人の下顎骨(1)、ホモ・エレクトス(頭骨、頭蓋冠、大腿骨、尺骨)(6)、アフリカ・ケニア産の化石(ニカクワニイノシン、シバテリウム、ウォーターバック、ヌー、ヒツジ、ウシ、サイ)(8)、バイフェス(3)、クリーパー(2)、アラゴ人復元頭骨模型(1)、アラゴ人脳模型、旧人の頭骨(ラ・シャペル・オ・サン、ラ・	114



所 蔵 者	資 料 名 ( ) 点数	点数
	キナ、ラ・フェラシー、ネアンデルタール、スウォンズクーム、ブロークンヒル、シュタインハイム) (7)、新人の頭骨 (クロマニヨン、グリマルディ) (2)、美術品 (ビーナス…ブラッサンブイ、レスビューグ、ビレンドルフ、バルマ・グランデ、ローセル、マドレーヌ、振り返るバイソン) (8)、猿人の足跡化石(3)、原人復元像(6)	
豊橋市動物園	ホッキョクグマ(1)、オオカミ (白色) (1)、オオカミ (黒色) (1)、バイソン(1)、トラ(1)	5
村 檉 石 灰 工 業 株 式 会 社	ヤベオオツノシカの下顎骨(2)、ステゴドン of 臼歯(2)、ナウマンゾウの臼歯(1)、イノシシの歯(1)、ナウマンゾウの足骨、ニホンムカシジカの角(1)	8
柏 宗 良	アフリカ産の旧石器(15)	15
西 尾 護	ナウマンゾウの臼歯(2)	2
松 本 実 男	マンモスゾウの臼歯(1)	1
鳥 取 県 立 博 物 館	南極大陸の岩石(2)、大桑層産出化石(60)、鯖川層産出化石(20)、鳥取平野産出化石(20)、大山火山灰層剥ぎ取り標本(1)、ツキノワグマ(1)、バイソンの頭骨(1)、ホンシュウジカ(1)、ナウマンゾウの臼歯(1)、ナウマンゾウ切歯(2)、マンモスゾウ臼歯(1)、マンモスゾウの大腿骨(1)、マンモスゾウの脛骨(1)、インドゾウの骨格(1)、ゾウの系統模型(1)、セイウチの頭骨化石(2)、ゴマファザラシ(1)、ニホンカモシカ(1)、ライチョウ(1)、ヤマネ(1)、カワシンジュガイ(1)、ウスバキチョウ(1)、ミツガシワ(1)、ザゼンソウ(1)、エンレイソウ(1)、ハマナス(1)、ジャワ原人復元胸像(1)、プレジアントロプス復元胸像(1)、クロマニヨン人頭骨(1)、アムッド人頭骨(1)	120

(五十音順に掲載)

(2) 江戸画壇の巨匠・谷文晁とその周辺の画家たち

会 期 平成3年10月5日(土)～11月4日(月)

会 場 第1展示室、第2展示室、第3展示室

主 催 鳥取県教育委員会、鳥取県立博物館

後 援 鳥取県各市町村教育委員会

入館料 一般700円(600円)、高校生500円(400円)

小・中学生300円(200円)※( )は団体料金

江戸画壇の巨匠・谷文晁とその実弟である鳥取藩士・島田元旦を中心に、その周辺の画家たちをとり上げて展示し、この時代の画壇の様相を紹介した。

<関連行事>

ア 特別講演会

期 日 平成3年10月12日(土)

演 題 文晁派について

講 師 山種美術館学芸部長 細野正信氏

イ 美術講座

期 日 平成3年10月26日(土)

テーマ 谷文晁と島田元旦兄弟

<出品目録>

番号	作者名	作 品 名	品 質	法量(クテ×ヨコ)cm	年 記	所 蔵
1	谷 文晁	重文 木村蒹葭堂像	絹本着色	68.9×42.2	享和2(1802)	大阪府
2	〃	ファン・ロイエン花鳥図模写	紙本着色	233.0×106.0		神戸市立博物館
3	〃	蘇東坡図	紙本淡彩	125.4×53.6	天明8(1788)	
4	〃	林和靖図	紙本淡彩	95.5×42.0		
5	〃	李白観瀑図	紙本墨画	176.4×86.4	寛政元(1789)	
6	〃	公余探勝図巻	紙本着色	各23.6×32.4	寛政5(1793)	東京国立博物館
7	〃	江山清遠図	絹本淡彩	40.6×60.0	寛政8(1796)	
8	〃	山中訪隠図	紙本淡彩	116.3×30.9		
9	〃	谿山疊嶂図	紙本墨画	101.7×29.0	寛政9(1797)	
10	〃	那智真景図	紙本墨画	135.7×27.0	寛政9(1797)	
11	〃	青緑滝山水図	絹本着色	123.3×53.8	寛政11(1799)	
12	〃	連山春色図	絹本着色	154.4×91.3		静岡県立美術館
13	〃	千山万水図	紙本淡彩	136.0×46.9	文化4(1807)	
14	〃	金碧青緑山水図	絹本着色	102.0×54.2	文化4(1807)	
15	〃	中回道士図	絹本着色	126.7×52.0	文化7(1810)	
16	〃	深山瀑布図	絹本墨画	117.4×34.3	文化9(1812)	
17	〃	彦山真景図	紙本墨画	171.8×288.9	文化12(1815)	東京国立博物館
18	〃	隅田川兩岸之図	絹本着色	59.4×112.0		群馬県立近代美術館
19	〃	四季山水図	絹本着色	各128.4×53.8		
20	〃	春雨山水図	絹本墨画	112.5×38.3	文政5(1822)	
21	〃	柳塘山水図	絹本淡彩	102.8×41.7	文政8(1825)	

番号	作者名	作 品 名	品 質	法量(タテ×ヨコ)cm	年 記	所 蔵	
22	谷 文晁	楼閣一帆山水図	絹本墨画	111.3×44.5	文政 9 (1826)	佐野美術館	
23	〃	楓林停車図	絹本著色	126.7×51.4	文政 9 (1826)		
24	〃	秋山風雪図	絹本著色	112.8×36.5			
25	〃	雪中南天小禽図	絹本淡彩	94.3×31.6			
26	〃	唐美人弹琴図	絹本著色	130.9×49.9			
27	〃	芙蓉雉子図・竹鶴図	絹本著色	各123.2×54.1			
28	〃	山水花鳥図巻	紙本淡彩	29.0×538.5	天保 2 (1831)		
29	〃	山水花鳥人物図屏風	絹本著色	各102.8×44.0	天保 3 (1832)		
30	〃	山水図屏風	紙本著色	各159.4×338.5			栃木県立博物館
31	〃	唐人物飲酒図	紙本淡彩	35.8×45.2	天保10(1839)		
32	〃	弁財天図	絹本著色	69.0×32.7		神戸市立博物館	
33	〃	谷文晁他 七福神図	絹本著色	35.7×45.0	文化10(1813)		
34	〃	異国船図	紙本	93.0×40.4			
35	〃	縮図帖 (2冊)	紙本墨画淡彩	各23.5×29.8			
36	谷 文一	道成寺図	絹本著色	各92.5×32.3		東京国立博物館	
37	谷 文二	関羽図	絹本著色	133.3×84.2			
38	〃	山水図	紙本墨画	128.3×61.5			
39	谷 幹々	草実図	紙本墨画	25.1×28.7			
40	谷文晁・幹々	江村晚清図・山水図	絹本著色	17.6×17.9 16.5×17.8			
41	谷 舜英	浅縫山水図	紙本淡彩	131.0×52.0			
42	〃	山水図	紙本墨画	56.1×26.0			
43	谷 文中	谷 文晁像	紙本淡彩	127.3×58.7	嘉永 3 (1850)		
44	立原 杏所	重美 蘆雁之図	絹本墨画	97.1×38.7			
45	〃	松島御島秋晚図	絹本著色	35.7×51.7	文化 7 (1810)		
46	高久 鬮厓	墨梅図	絹本墨画	145.0×56.7		栃木県立博物館	
47	〃	袋田瀧真景図	絹本著色	94.5×35.5			栃木県立博物館
48	渡辺 華山	重文 佐藤一斎像	絹本著色	81.0×50.0	文政 4 (1821)	東京国立博物館	
49	〃	蘆汀双鴨図	絹本著色	103.0×36.8		常葉美術館	
50	〃	乳狗図	絹本著色	120.8×52.0		黒川古文化研究所	
51	椿 椿山	佐藤一斎像画稿	紙本淡彩	36.4×24.7		東京芸術大学	
52	〃	春江遊魚図	絹本淡彩	98.5×36.5	嘉永 3 (1850)	東京芸術大学	
53	〃	四愛図	絹本著色	128.0×42.8		栃木県立博物館	
54	酒井 抱一	菖蒲に小禽図	絹本著色	97.3×36.0		神戸市立博見館	
55	〃	月に秋草図	絹本著色	107.5×35.5			
56	田能村竹田	秋景山水図	紙本淡彩	132.0×28.5			
57	〃	美人拜月図	絹本著色	104.9×42.3			
58	〃	柘榴図	紙本著色	134.8×29.8			
59	匝欧堂田善	秋山渡橋図	絹本著色	29.9×64.2			
60	〃	銅版画 大日本金龍山之図	紙本	25.7×53.0			
61	〃	〃 二州橋夏夜図	紙本	11.1×15.3			
62	〃	〃 日本橋魚廓図	紙本	11.1×15.6			
63	〃	〃 真州先稲荷隅田川眺望	紙本	11.1×15.6			神戸市立博物館

番号	作者名	作 品 名	品 質	法量(タテ×ヨコ)cm	年 記	所 蔵
64	木村蒹葭堂	山水図	絹本淡彩	43.6×56.3	寛政11(1799)	大阪市立美術館
65	島田 元旦	秋景山水図	絹本著色	170.0×87.0		鳥取県立博物館
66	〃	雪中山水図	絹本著色	171.0×84.5		
67	〃	春秋山水図(双幅)	絹本著色	各117.2×56.5		
68	〃	青緑山水図(双幅)	絹本著色	各118.5×54.8		
69	〃	青緑山水図	絹本著色	55.7×125.3	天保2(1831)	鳥取県立博物館
70	〃	寿老人春秋山水図	絹本著色	各117.4×53.5		景福寺
71	〃	花鳥図(双幅)	絹本著色	各135.8×44.2		
72	〃	花鳥図	絹本著色	145.7×81.5		
73	〃	四季花鳥図	絹本著色	154.0×85.8		
74	〃	県指定 花鳥図(双幅)	絹本著色	各135.8×44.2		
75	〃	花鳥図	絹本著色	128.2×52.5		
76	〃	富士山図	絹本著色	58.4×82.7		
77	〃	寿老図(三幅対)	絹本著色	各117.5×40.0		
78	〃	草花図(三幅対)	紙本淡彩	各130.2×56.6		景福寺
79	〃	仙境雅会図	絹本著色	136.5×68.5	文化7(1810)	鳥取県立博物館
80	〃	楊貴妃図(三幅対)	絹本著色	各139.0×44.0		
81	〃	江村幽居図	絹本著色	50.8×87.7		
82	〃	仔犬図	絹本著色	44.2×62.0		
83	〃	醉李白図	絹本著色	110.5×53.9		鳥取県立博物館
84	〃	東方朔図	絹本著色	94.3×33.5	文化2(1805)	鳥取県立博物館
85	〃	寒山拾得図	紙本著色	183.0×123.0		景福寺
86	〃	玉兔図	絹本著色	183.0×110.0		景福寺
87	〃	猛虎図	絹本著色	131.0×67.1		
88	〃	猫竹虎之図	絹本著色	115.5×46.8		
89	〃	鶴鶴図	絹本著色	99.2×41.0		
90	〃	牡丹小鳥図	絹本著色	111.2×37.7		
91	〃	東海道道中図屏風	紙本著色	各161.5×360.0		
92	〃	鶴鹿図屏風	紙本著色	各132.2×57.2	文政9(1826)	
93	〃	花鳥図屏風	絹本著色	各127.5×49.5		
94	〃	山水図屏風	紙本淡彩	各130.0×54.0		
95	〃	下野国内風景図	紙本著色	各23.5×35.5		栃木県立博物館
96	〃	蝦夷風俗図式・蝦夷器具図式	紙本淡彩	各28.0×20.0		
97	〃	蝦夷紀行図巻(3巻)	紙本淡彩			
98	〃	許由・巢父図	絹本著色	54.8×70.5		
99	〃	黄初平図	絹本油彩	57.1×74.8		神戸市立博物館
100	〃	毛夷武餘嵐図	絹本著色	55.0×87.5		

### 3 催 物 展

#### (1) 山地の自然の暮らし

会 期 平成3年12月4日(水)～平成4年1月19日(日)

会 場 第2展示室

山地の自然とそこにらす人々の生活を紹介し、鳥取県の山地の特色やその文化、自然と人間の調和のあり方などについて考えていただく機会とした。

<主な展示資料>

樹幹標本、押し葉標本、キノコ標本、岩石標本、山地の鳥類、昆虫標本、国絵図、御立山絵図、村絵図、木師屋関係道具、うるしかき道具など

#### 4 教育普及活動

##### (1) 巡回展

展 示 テ ー マ	会 期	会 場	入場者数
地球の歴史と生物の進化	3. 5. 19 ~ 3. 5. 28	青谷町中央公民館	421 <sup>人</sup>
	4. 1. 25 ~ 4. 3. 29	北条町歴史民俗資料館	771
昔の道具とくらし	3. 7. 23 ~ 3. 7. 28	泊村中央公民館	126
	3. 10. 5 ~ 3. 10. 27	日野町歴史民俗資料館	749
	3. 10. 31 ~ 3. 11. 4	江府町日輪閣	397
県立博物館所蔵美術品展	3. 5. 25 ~ 3. 6. 9	西伯町歴史民俗資料館	1,131
	3. 6. 12 ~ 3. 6. 23	岸本町農村環境改善センター	1,346
	3. 6. 26 ~ 3. 7. 7	日野町公民館	947
計			5,888

##### (2) 天体観望会・見学会

事 業 名	期 日	場 所	参加人員
春の星を見る会	3. 4. 20	前庭	35 <sup>人</sup>
歴史と民俗を訪ねる会	3. 4. 21	羽合町	49
野鳥の声を聞く会	3. 5. 12	鳥取市	131
夏の星を見る会	3. 8. 17	前庭	50
キノコを調べる会	3. 10. 6	国府町	62
地質見学会～鳥取砂丘を訪ねる～	3. 10. 13	鳥取砂丘	11
秋の星を見る会	3. 10. 19	前庭	23
計			361

## (3) 講演会

演 題	講 師	期 日	参加人員
民芸の祖 柳宗悦 — 美の救い —	明治学院大学教授 阿満 利麿氏	3. 4. 21	250 <sup>人</sup>
お伊勢まいりと庶民信仰	群馬大学教授 西垣 晴次氏	3. 6. 8	140
旧石器時代の世界	岡山大学教授 稲田 孝司氏	3. 8. 3	110
蘇える上淀廃寺	淀江町教育委員会 教 育 会 長 安江 禎晃氏	3. 10. 5	121
文晁派について	山種美術館学芸部長 細野 正信氏	3. 10. 12	85
計			706

## (4) 講座

事 業 名	期 日	参加人員
美術講座 郷土の古美術・阿弥陀如来と来迎美術	3. 5. 11	41 <sup>人</sup>
人文講座 拓本のとり方	(1) 3. 5. 18	19
	(2) 3. 5. 25	20
美術講座 昨年の展覧会から・狐高の画家モランディー	3. 6. 15	12
“ 昨年の展覧会から・大阪絵画トリエンナーレ'90	3. 6. 22	5
自然講座 海そう標本の作り方	3. 8. 1	54
“ 昆虫標本の作り方	3. 8. 2	35
美術講座 座談会と列品解説・型紙と型染の技と美	3. 8. 4	60
自然講座 化石模型を作ろう	3. 8. 11	43
“ 標本を調べる会	3. 8. 23	127
美術講座 谷文晁と島田元旦兄弟	3. 10. 26	46
“ 版画の技法と鑑賞	(1) 3. 11. 16	7
	(2) 3. 11. 30	11
郷土史講座 鳥取の武家社会	3. 11. 17	46
人文講座 郷土の民俗学者・蓮仏重寺と田中信次郎	3. 12. 7	34
計		560

## (5) 資料の貸出

品名	数量	規格・銘柄	貸付期間	貸出し先	貸付けの目的
「棟梁の家族」	1	油彩 前田寛治 作	3. 7. 1 ～ 3. 8. 25	宮城県美術館	開館10周年記念特別展
「トルソ」ほか	4	陶彫 辻 晉堂 作	3. 7. 1 ～ 3. 8. 31	米子市美術館	辻晉堂没後10周年記念特別展
「遊女図」	1	軸 遊女大橋 筆	3. 7. 23 ～ 3. 9. 21	板橋区立美術館	江戸の閨秀画家展
「花と子供等」 ほか	16	油彩 前田寛治 作	3. 8. 22 ～ 3. 9. 30	米子市美術館	常設展 前田寛治展
「棟梁の家族」	1	〃	3. 8. 25 ～ 3. 9. 30	〃	常設展Ⅱ 前田寛治展
「猿の図屏風」 ほか	4	紙本著色 土方稲嶺 作	3. 12. 20 ～ 4. 1. 25	名古屋城管理事務所	特別陣列 猿、申・壬申
「工場風景」	1	油彩 前田寛治 作	4. 3. 27 ～ 4. 8. 19	岡山県立美術館	戦前期の日本の抽象絵画展
土 笛 ほか	2	模型	2. 12. 14 ～ 3. 4. 30	西伯町教育委員会	西伯町歴史民俗資料館 いにしへのふるさと展
鹿埴輪 ほか	2		3. 4. 10 ～ 3. 7. 2	北条町歴史民俗資料館	北条町の古代遺物展
馬ノ山4号 墳 模 型	1		3. 4. 1 ～ 4. 3. 31	羽合町教育委員会	羽合町歴史民俗資料館常設展示
墨書土器「厨」 ほか	10	因幡国府跡	3. 11. 3 ～ 3. 11. 30	府中市教育委員会	特別展 国府展
開地谷古墳出土 子 持 壺	1		4. 3. 19 ～ 4. 5. 23	倉吉博物館	特別展 装飾須恵器
合 計	44				



## 5 調査研究活動

### (1) 調査研究

分野	事項
地学	鳥取県下に分布する鳴り砂についての調査 気高町下光元産の鮮新世植物化石についての調査研究
動物	鳥取県東部の中・小河川下流域における淡水魚類の分布調査
植物	鳥取県東部におけるツワブキの分布調査 岩美町における社叢についての調査
歴史	鳥取県の海岸絵図の研究
民俗	特別展「まつり・獅子と龍」関係資料の調査研究 鳥取県東部地方の“ナレズシ”についての調査研究 鳥取県の木造船についての調査研究 旅漁民と港の文化の研究 鳥取県の地曳網漁の調査研究 鳥取県の民俗芸能についての調査
美術	鳥取県ゆかりの作家及び作品についての調査研究 近代日本画（特に京都画壇を中心に）についての調査

### (2) 研究報告書等の刊行

刊行物の名称	発行時期	発行部数	規格	ページ数
郷土と博物館第37巻	3年9月 4年3	1,000部	A 5	32ページ
研究報告第29号	3	500	B 5	67
所蔵目録41 隠花植物目録(岩永標本1)	3	500	A 5	58
資料調査報告書第19集 -気高郡八葉寺村植田家資料-	3	300	B 5	19
博物館年報 No. 19	3	400	B 5	48
博物館だより No. 53 ~ 56	4,7,10,1	各2,500	B 5	4